

性化に精を出す多彩なまちづくり団体が存在します。町並み整備を推進する団体、住民の伝統家屋修理の相談にのり設計・施行をする技術者のNPO、祭の企画運営をする住民団体、町並みのボランティアガイドの会、空き家の管理委託を受け修理し借り手を探すNPOなど様々な住民団体が活動しています。行政はそれらの団体を支援する等の住民と行政のパートナーシップが組まれて、町並み保存のまちづくりが進んでいます。これらが功を奏し、少しずつですが往事の町並みがよみがえり、空き家を借りて住む人や、レストランや工芸工房に活用する人が増えてきています。町家の店間(みせのま)や座敷に飾られた雛人形を見て回る「ぼんぼり祭」も春に開催され多くの観光客で賑わいます。子供への文化の伝承も熱心に行われています。技術者のNPOが小学校の総合学習の時間に町並みの解説を行い、伝統家屋の修理の際は小学生も土壁塗や柿渋塗に参加しています。伝統祭事は地域の結束を高めるだけでなく、文化を伝える重要な役割を担っています。伝統祭事の「燈籠人形」では3歳ぐらいになると「後見」という役で舞台の端に座り、年齢が上がると囃子方や人形遣いの役があてられます。地域で子供を育てながら文化を継承するシステムができています。これらの取組がドキュメンタリー映画「まちや紳士録」として平成25年に完成し各地で上映されています。



江戸時代より続く伝統祭事、八女福島の燈籠人形

6. 空き家再生の取組

福島のまちづくり団体の中でも空き家再生に取り組む「NPO八女町家再生応援団」の活動はユニークであり、平成26年に「サントリー地域文化賞」を受賞し、更に本年には「第6回自治体学会賞・田村明まちづくり賞」を受賞しました。このNPOは空き家の積極的な活用を支援する事を目的に設立されました。伝統家屋は不

動産市場には流通しておらず、希望者がやっと物件を見つけても所有者と条件が合わずに断念する場合も多くあります。それを解消するのがこのNPOで、町並みの魅力と空き家情報をインターネットで発信し、転入希望者を募り所有者に紹介しています。希望者へは伝健制度の説明を行い、まちづくりへの協力を求めています。これまでに52軒の空き家が活用され、地域活性化に貢献しています。その内訳は、レストランや工芸販売などの店舗活用が18軒、木工や竹細工などの工房が9軒、デイケアなどの介護サービスが4軒、事務所が2軒、一棟貸し宿泊施設が1軒、専用住宅が18軒となっています。観光客をターゲットにした店舗だけではなく、地域に求められる介護サービスや専用住宅としても伝統家屋が活用されているのが特徴です。空き家の需要は徐々に増加しており、現在、驚くことに十数人が順番待ちをしている程です。

このNPOのユニークな点は、会員を中心として有志を募り、空き家修理のための「町家保存機構」を物件ごとに発足させていることです。所有者が修理資金を負担することができない倒壊寸前の空き家を修理するために、所有者と管理委託契約を結び、修理負担金を保存機構会員から調達し修理を実施しています。修理事業の前に入居者を決め同機構への入会を勧め、内部の改修に意見を反映できるようにしています。入居後は賃貸料を修理資金の提供者へ返却するシステムです。これにより5棟の倒壊寸前の空き家が救われ、全棟が住宅や店舗として活用されています。このような事が実現できたのは、空き家の増加に危機感を持ち、何とか再生せねばと熱心に活動する住民達が存在したこと、修理費用に補助があり所有者の修理負担金が軽減される伝健地区であったことが大きいと考えられます。



修理されて蘇った八女福島の町並み

7. 八女市の着地型観光の取組

八女市には二つの伝健地区以外にも伝統的な町並みや農村集落が存在し、豊かな農産物や伝統工芸があり、自然景観にも恵まれています。平成22年の市町村合併を契機に、これらの地域資源を活かした地域活性化を目指し、着地型観光の取組が始まりました。地域が主体的に体験プログラムの企画をするために、市が出資する「一般財団法人FM八女」の中に旅行業部門を設け、平成26年に第3種旅行業を県に登録しました。旅行業取得により着地型観光の企画がしやすくなり、平成26年4月からはミニバスツアー「旅する茶のくに周遊バス」を開始しています。まずは八女の魅力を知ってもらう事を目標に、月に1回テーマを決めて募集し、観光地や体験地を回る1日ツアーで、ものづくり体験や季節の花や祭りなど様々な魅力を体感することができます。公共交通の便が悪く、市内に散らばる地域資源へのアクセスが容易でないことから、山間部の狭い道路にも入って行ける定員20名のマイクロバスで隣接市にあるJR久留米駅と西鉄久留米駅まで送迎します。参加費は1,000円で、食事代や入場料、体験料は実費を徴収します。公共交通や大型バスでは行けない場所を安価に廻れることから客の満足度が高く好評で、現在は月2回実施されています。観光により地域の魅力を発信し地域ブランドを高め、交流人口の増加のみならず移住者を増やすことを目標としています。平成28年4月には福岡県香港事務所の協力により香港からの参加者もありました。インバウンド観光への手応えは感じていますが、まだ英語のホームページやパンフレットが作成されておらず、準備段階というところです。



広大な棚田をめぐるツアーが人気のバリ島ジャティレイの棚田

8. おわりに

筑後地方には耳納山脈や筑肥山地等の美しい峰を持つ山があり、筑後川と矢部川が有明海へ注ぎ、渓谷から干潟まで変化に富む景観があります。山間部には茶畑や棚田が築かれ、斜面地では果樹が栽培され、平野部では豊かな畑地や水田が広がっています。これらの景観も観光資源となり得ます。インドネシアのバリ島では棚田を回るツアーが盛んで、世界遺産になっているジャティレイの棚田はかなり山奥にありますが、欧米からも多くの観光客が訪れています。バリ島の観光拠点都市であるウブドのホテルの売りはなんと「部屋から水田が目の前に見えます」。日本人の私からすれば水田は「海が見えます」くらいのインパクトがあるのかと驚いてしまいます。これからは、町並みや農村景観、伝統工芸、農産物や加工品、祭などのそこでしか見ることができないモノや体験できないコトを練り込んだプログラムを企画する着地型観光の取組が地域活性化には必要で、国内だけでなく海外への情報発信も積極的に取り組むべきです。筑後地方にはその資源は豊富にあります。人口減少が進む地方では、地域の存続と文化の維持のために、地域が主体となって観光を賢く利用することが重要なのではと考えています。

美味しい地酒と地元の食材を利用した料理に舌鼓をうちながら、町並みや農村集落をめぐる、地域の文化や人々と触れ合える観光は、成功しないはずはないと思います。



筑後川支流の巨勢川から見る耳納連山

本件に対するお問い合わせ先

久留米工業大学 建築・設備工学科
教授 大森 洋子

福岡県久留米市上津町2228-66
TEL 0942-22-2345(代)
E-mail: omori@cc.kurume-it.ac.jp